学校番号	３２０

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校倫理　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	「最新図説　倫理」（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人生の意味や意義について、普段はあまり考えることもないかもしれないが、先哲の思想や思考の学習を通じて、「善く生きることとは？」「幸福とは？」といった問いかけを自らになげかけてみよう。
・主体的な自己を確立すること、他者と共に生きることを、ともに自己の課題として意識しよう。

２　学習の到達目標

1. 青年期の課題と、人間としての生き方について、古今東西の諸思想の学習を通して理解と思索を深める。
２．主体としての自己の確立をめざして、とくに人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。
３．現代社会の倫理的な課題について、主体的に考え、公正に判断する能力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と生命への畏敬の念に基づき、青年期における自己形成についての関心を高める。自己の確立と他者とともに生きる意欲を持ち、社会の諸課題を探求する態度を身につける。	自己の確立と他者との共生について、広く課題を見出し、人間の存在や価値について多面的・多角的に考察するとともに、良識ある市民として広い視野に立ち公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての生き方に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択し、自己の確立と他者との共生に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての生き方に関する基本的な事柄を理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	青年期の課題と人間の自覚	第1章　青年期の意義と課題 第2章　人間としての自覚 第1節　ギリシア思想 ソクラテス、プラトン アリストテレス、ヘレニズム 第2節　キリスト教 ユダヤ教、イエス、キリスト教 第3節　イスラーム教 第4節　仏教 バラモン教、原始仏教、 大乗仏教 第5節　諸子百家の思想	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	a:人生における哲学・宗教の持つ意義に対する関心を深め、それらが投げかける自己や人間存在の意味や価値について主体的に考えようとしている。 b:ギリシア思想・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想などの考えを手がかりに、人間としての生き方について広い視野で主体的かつ公正に判断している。 c:源流思想について資料集などを手がかりにするほか、図書館や美術館・博物館などで資料を探索し、学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択し活用している。 d:ギリシア思想・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想などの基本的な用語や概念を正しく理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。	ワークシート 定期考査

前期	日本人としての自覚	第1節　古代日本人の思想 日本の風土と人々の生活 神とのかかわりと道徳観 第2節　日本の仏教思想 仏教の受容 鎌倉仏教 第3節　近世日本の思想 江戸時代の儒学 国学の形成 民衆の思想、幕末の思想 第4節西洋思想の受容と展開 啓蒙思想と自由民権運動 キリスト教の受容 国家主義と社会主義 近代的自我の確立 その他の思想	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	a:日本の風土や伝統への関心を深め、日本人の人間観、自然観、宗教観などの特質について意欲的に探求し、国際社会に生きる主体性のある日本人のあり方を考えようとしている。 b:古典や生活習慣を元に、日本の風土や伝統の上にどのようにして外来思想が受容され吸収されていったのか多面的・多角的に考察し、またその考察の結果を様々な方法で表現する。 c:古典作品の読解や神社仏閣などの訪問など、日本人の自然観や宗教観の特質についての理解を深められる資料を選択し活用できる。 d:現代日本社会に息づく日本の伝統文化や、日本的に受容された外来思想についての知識を身につけ、自己の人格形成に生かす。	ワークシート 定期考査 レポート
後期	現代に生きる人間の倫理	第1節　人間の尊厳 ルネサンスと宗教改革 第2節　科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節　社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節　人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節　社会参加と幸福 生命への畏敬と非暴力 正義と福祉	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者との共生について考えようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想の形成と展開を多面的に考察し、自己の生き方とどう関わるかを広い視野にたって主体的かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関して資料集を手がかりにするほか、図書館や美術館などでも資料を探索し、先哲の思想や人生を自らの思索を深めるために活用している。 d:西洋思想の形成と展開について、現代社会でも用いられる基本的な概念や枠組みを知識として正しく身につけている。	ワークシート 定期考査

後期	現代の諸課題と倫理	第1節　生命の倫理	○	○	○	○	a:現代の諸課題から、関心のある問題を積極的に選択し意欲的に探究する。 b:現代の諸課題を自己の課題とつなげて多面的多角的に考察し、自己の行き方について広い視野に立ち主体的に判断する。考察結果をレポートし、発表や討論などを通じて伝え、また他者の意見や批判に耳を傾ける。 c:現代の諸課題についての資料をインターネットなどを通じて収集し、主体的かつ公正に情報を取捨選択する。 d:今日の諸課題を、自己の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。	ワークシート 定期考査 レポート グループ発表
		第2節　環境の倫理	○	○	○	○		
		第3節　家族の課題	○	○	○	○		
		第4節　地域社会の課題	○	○	○	○		
		第5節　情報化社会の課題	○	○	○	○		
		第6節　文化と宗教の課題	○	○	○	○		
		第7節　国際平和と人類の福祉の課題	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。